

市場は意外とボリテラウ

風土がフードを生むというのが、旅先で郷土料理を楽しむなら市場へ出掛けてみるのだ。重い荷物を短時間で持ち運ぶ市場の中は段差がなく、車椅子でも移動可能な場合が多いからだ。

海外も同様で、何かその国らしい場所はないかと尋ねられたときは、市場観光を薦めている。東京の築地市場も外国人に大変人気だ。

周辺には、そこで働く人のために食堂が並んでいて、さまざまな種類の料理を新鮮な食材で楽しむことができる。注意しておくのは、トイレのチェックくらいだろう。競りが終わり、人が少なくなった時間帯なら安全だ。

那覇市の公設市場と周辺の商店街は地元の台所でもある。生鮮品から、おばあ自慢の手作り



海外でも市場は活気があって楽しい—バンコク

「人との触れ合い」も魅力

料理まで所狭しと並ぶ。沖縄名物の豚料理や南の海で取れる魚が珍しい。公設市場の2階に上がるとゆったりとした空間に食堂が並び、1階で買った食材を調理してくれるシステムがある。

エレベーターがあつて車椅子を利用するお年寄りも来ている。入れ代わり立ち代わりいろいろな人が来るから、話し相手に困らないのもいい。

大阪のシェフが運営している「パリアフリーレストランを考える会」というウェブサイトがある。お店に車椅子で来た人の話を聞いたのが気付きで、全国の飲食店をデータベース化している。

そうしたお店では、料理を小さくカットしてほしいといった注文にも応えてくれるはずだ。

木製の車椅子を貸してくれるホテルもある。晴れの場の雰囲気や大事にしてくれる気配りがありがたく、結婚式や記念日など相談してみるのもいい。

食事もそうだが、旅先では居合わせた人同士が気持ちよく時間と空間を共有できるとうれしい。

那覇市の国際通りに近い路地で、お年寄りが買い物用カートを押して歩いていた。「気を付けてくださいね」。土産を売る今風の若者がごく自然に優しく言葉を掛ける。お年寄りは、目の前のカートを押すことで精いっぱいなのか振り返ることもせず、当たり前のように、うなずきながら去って行く。

優しい言葉の響きだけが心に残り、思わずほほ笑んでしまった。(日本トラベルヘルプ協会理事・篠塚恭一)